

実施要領 様式11(第13条関係)  
【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成22年5月27日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0270201627
法人名	いかり商事株式会社
事業所名	グループホームアップルハウス
所在地	青森県弘前市大字境関亥ノ宮29-1 (電話)
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年2月13日

【情報提供票より】(平成22年1月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月18日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤	18人, 非常勤 3人, 常勤換算 18人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1 階建ての	1 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,800 円	その他の経費(月額)	理美容代 実費 ほか
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

#### (4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	25 名	男性	3 名	女性	22 名
要介護1	9 名	要介護2	10 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	いとう胃腸科内科クリニック 波多野歯科医院
---------	-----------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者および職員は地域密着型サービスの役割について理解しており、利用者一人ひとりを尊重し、その人に寄り添った、心のこもったサービスを提供するというホーム独自の理念を作り上げ、その人らしく暮らし続けることの支援に努めている。

地元町内会に加入し、老人クラブ主催の行事や近隣保育園の慰問・訪問など、利用者の状態に応じて参加し、交流を図っている。また、行事の際の地元ボランティアの協力や、訪問介護員養成実習生の受け入れなど、認知症及び認知症ケアの周知に努めるほか、地域の社会資源としての役割を果たすよう取り組んでいる。

職員は委員が参加しやすい日程になるよう配慮し、町内会長、第三者委員会、利用者家族、市職員の参加を得て、2ヶ月毎に開催している。会議では行事の内容や反省点、自己評価、外部評価結果等の報告を行い、積極的に意見交換を行いホームのサービスの質の向上に活かしている。

本人及び家族の希望する病院への受診サービスを行なっている。外出が難しい利用者に対しては、看護師が週3回訪問するなど医療体制を整えている。また、独自に外泊様子ノートや医療ノートを作成し、家族への報告に役立てている。

### 【特に改善が求められる点】

同業者との交流を計画しているので、今後も、同業者と連絡調整を行い、職員同士が交流できる機会を作り、ホームのサービスの質の向上や職員育成につながることに期待したい。

利用者の身体状況の急変も考えられるので、家族、医療、看護師との連携を密にし、意思統一を図ることに期待したい。

避難訓練を行う際は、地域の協力員や近隣の住民、利用者も参加して行うことに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を基に全職員で検討し、改善に向けた取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者や管理者は、評価のねらいや活用方法を全職員に周知し、職員は理解している。また、自己評価を作成する際は、ユニット毎に全職員が関わっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>職員は委員が参加しやすい日程になるよう配慮し、町内会長、第三者委員会、利用者家族、市職員の参加を得て、2ヶ月毎に開催している。会議では行事の内容や反省点、自己評価、外部評価結果等の報告や積極的に意見交換を行いホームのサービスの質の向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>ホーム入り口に意見箱を設置したり、運営推進会議に家族等の参加を促すほか、第三者委員会を設置し、利用者及び家族が相談、苦情、意見を出しやすいよう配慮している。また、重要事項説明書に相談・苦情受付窓口を記載しており、出された意見等は、管理者を中心にケアカンファレンスで検討し、日々のサービスに反映させるよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元町内会に加入し、老人クラブ主催の行事や近隣保育園の慰問・訪問など、利用者の状態に応じて参加し、交流を図っている。また、行事の際の地元ボランティアの協力や、訪問介護員養成実習生の受け入れなど、認知症及び認知症ケアの周知に努めるほか、地域の社会資源としての役割を果たすよう取り組んでいる。外部の方を受け入れる際は、事前に利用者や家族等より同意を得るなど、利用者のプライバシーに十分に配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者及び全職員は、「利用者の人格を尊厳し、住みなれた地域で、地域住民との交流の下で常に利用者の立場に立って、それぞれの利用者が必要とするサービス提供」というホーム独自の理念を掲げ、毎月の職員会議の中で理念の確認を行い、日々のケアに努めている。</p> <p>地域との交流を図る際は、利用者のプライバシーに配慮しながら、地域の社会資源としての役割を果たしている。</p> <p>管理者は職員の力量と経験を考慮し、年間の研修計画を作成して、内部、外部研修に参加させ、職員の質の確保・向上に努めている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを利用できるように、利用者や家族等と十分に話し合い、双方の意向に沿えるよう調整している。また、利用者の視点に立った支援内容となるよう取り組んでいる。</p> <p>職員は利用者を人生の先輩として尊重し、個々の生活暦などを参考にしながら、習字や歌などの得意分野を生かせるよう働きかけている。また、ホーム内にある畑で野菜作りと通じて、利用者職員が共感し、理解し合えるように努めている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>各ユニットでケアカンファレンスを開催し、医師からの意見や本人及び家族等の希望、職員の気づきから、援助目的や介護内容を検討し、介護計画を作成している。介護計画は利用者一人ひとりに応じた個別具体的なものとなっている。</p> <p>本人及び家族の希望する病院への受診サービスを行なっている。外出が難しい利用者に対しては、看護師が週3回訪問するなど医療体制を整えている。また、独自に外泊様子ノートや医療ノートを作成し、家族への報告に役立てている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>個人情報保護法についてマニュアルを作成し、内部研修を行うことで、全職員が守秘義務について理解しており、利用者のプライバシーや誇りを損ねるような言葉掛けなどは行っていない。職員の声掛けや対応については、管理者が日々のケアを観察し、気づいた際は声掛けを行っている。</p> <p>職員は利用者の趣味や特技を把握し、書道や貼り絵など個々が楽しめるように支援している。ホームの敷地内に農園を準備しており、季節に応じてきゅうり等の農作物を作り、職員と共同作業を行い、生活意欲が持てるように支援している。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者および職員は地域密着型サービスの役割について理解しており、利用者一人ひとりを尊重し、その人に寄り添った、心のこもったサービスを提供するというホーム独自の理念を作り上げ、その人らしく暮らし続けることの支援に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関に掲示したり、連絡ノートに添付するほか、毎月の会議で職員への説明と周知を徹底している。また、職員は理念に基づいた福祉サービスの提供に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地元町内会に加入し、老人クラブ主催の行事や近隣保育園の慰問・訪問など、利用者の状態に応じて参加し、交流を図っている。また、行事の際の地元ボランティアの協力や、訪問介護員養成実習生の受け入れなど、認知症及び認知症ケアの周知に努めるほか、地域の社会資源としての役割を果たすよう取り組んでいる。外部の方を受け入れる際は、事前に利用者や家族等より同意を得るなど、利用者のプライバシーに十分に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は、評価のねらいや活用方法を全職員に周知し、職員は理解している。また、自己評価を作成する際は、ユニット毎に全職員が関わっている。自己評価や外部評価結果を基に、全職員で話し合い、サービスの向上に活かしている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員は委員が参加しやすい日程になるよう配慮し、町内会長、第三者委員会、利用者家族、市職員の参加を得て、2ヶ月毎に開催している。会議では行事の内容や反省点、自己評価、外部評価結果等の報告を行い、積極的に意見交換を行いホームのサービスの質の向上に活かしている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や包括支援センターに、パンフレットや広報誌を配布するほか、自己評価や外部評価の結果も報告している。また、市から新型インフルエンザ等の最新情報を提供してもらうなど、常に担当者との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が日常生活自立支援事業などの外部研修に参加し、内部研修にて全職員に周知しており、全職員が概ね制度の内容を理解している。必要に応じて、利用者、家族に情報提供等の支援を行っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は内部研修を行い、職員が高齢者虐待について学ぶ機会を設け、全職員が理解を深めている。また、日々のケア状況を観察し、虐待を未然に防ぐよう努めている。虐待を発見した場合は、事故報告書で報告する体制が整っており、職員は理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申込み時に、パンフレットや重要事項説明書、利用契約書で、サービスの内容やケアの方針等を説明し、利用者や家族等が意見を出しやすいように配慮している。また、契約改訂時や退居時には十分説明し、同意を得ている。退居の際は、居宅支援事業所等の社会資源についての情報提供などを行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームに来所された時に、利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況、現金出納状況、行事参加状況等を記載した「ご様子シート」を作成し報告している。また、来所できない家族の方には書面を送付している。体調変化時などは随時電話にて連絡している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口に意見箱を設置したり、運営推進会議に家族等の参加を促すほか、第三者委員会を設置し、利用者及び家族が相談、苦情、意見を出しやすいよう配慮している。また、重要事項説明書に相談・苦情受付窓口を記載しており、出された意見等は、管理者を中心にケアカンファレンスで検討し、日々のサービスに反映させるよう取り組んでいる。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を行なう際は、利用者に十分説明し、理解を得ている。また、職員の交代により、利用者に影響が出ないよう、日頃から各ユニット責任者を中心に協力体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は年間研修計画を作成し、職員が希望した研修に参加できるよう勤務体制等に配慮しているほか、スーパーバイザーを担い、職員の業務に関する支援や助言を行っている。外部研修参加者は、伝達研修を行い全職員に内容を周知している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協会に加入し、シンポジウムなどに参加している。同業者との交流を計画しているが、実施するまでには至っていない。	○	今後も、同業者と連絡調整を行い、職員同士が交流できる機会を作ることで、ホームのサービスの質の向上や職員育成につながることに期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるように、利用者や家族等と十分に話し合い、双方の意向に沿えるよう調整している。また、利用者の視点に立った支援内容となるよう取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊重し、個々の生活歴などを参考にしながら、習字や歌などの得意分野を生かせるよう働きかけている。また、ホーム内にある畑で野菜作りを通じて、利用者と職員が共感し、理解し合えるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント等により、利用者の生活歴や趣味、思いなどを十分に把握している。また、意見箱や第三者委員会の面談により、利用者の希望を把握できるように努めている。必要に応じて家族等から情報を聞き取りしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各ユニットでケアカンファレンスを開催し、医師からの意見や本人及び家族等の希望、職員の気づきから、援助目的や介護内容を検討し、介護計画を作成している。介護計画は利用者一人ひとりに応じた個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の実施期間を明記し、実施期間満了時には見直しを行っている。また、実施期間に関わらず、利用者の身体状況の変化が生じた時や利用者、家族の希望に変化があった時は、その都度計画の見直しを行っている。計画の見直しを行う際は、医師等の意見も取り入れるなど、再アセスメントを行うほか、家族に報告し、同意を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人及び家族の希望する病院への受診サービスを行っている。外出が難しい利用者に対しては、看護師が週3回訪問するなど医療体制を整えている。また、独自に外泊様子ノートや医療ノートを作成し、家族への報告に役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時のアセスメントで個々の状況を把握し、利用者や家族等の希望する医療機関の受診を支援している。医療機関に応じて家族の協力を得るなど、受診方法等について理解を得ている。受診の結果については、利用者、家族、看護師が共有できるように医療ノートを作成し、情報の共有を行っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び看取りの対応に係る指針を作成し、家族との同意を取り交わしているが、利用者や家族、医療機関を交えた話し合いを行い、意思統一を図るまでには至っていない。	○	身体状況の急変も考えられるので、家族、医療、看護師との連携を密にし、意思統一を図ることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法についてマニュアルを作成し、内部研修を行うことで、全職員が守秘義務について理解しており、利用者のプライバシーや誇りを損ねるような言葉掛けなどは行っていない。職員の声掛けや対応については、管理者が日々のケアを観察し、気づいた際は声掛けを行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の言動を急かせないように、一人ひとりのペースに合わせた声掛けを行っている。屋外の散歩などには職員が付き添い、個々の希望に沿えるように支援を行っている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が利用者の好みに配慮しながら献立を作成している。また、利用者は個々の能力や意思に応じて、盛り付けや後片付けを職員と一緒にやっている。職員は毎食利用者と一緒に食事を摂りながら、食べこぼしなどの支援を行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴習慣や好みを把握し、週2回入浴の機会を設け、個々の意向に応じた入浴支援を行っている。また、入浴に対する羞恥心や負担感、安全面にも十分配慮しているほか、入浴を拒否する場合は無理に勧めず、少し経ってから声がけしたり、足浴に変更するなどの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の趣味や特技を把握し、書道や貼り絵など個々が楽しめるように支援している。ホームの敷地内に農園を準備しており、季節に応じてきゅうり等の農作物を作り、職員と共同作業を行い、生活意欲が持てるように支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者がホームの中だけで過ごさないように、地域の保育園に訪問し交流を図ったり、ドライブに出掛けるなど、個々の身体状況や希望に応じて、できるだけ外出できる機会を設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は内部研修で身体拘束の対象となる具体的内容について学習し、理解しており、身体拘束排除宣言を掲げ日々のケアを行っている。やむを得ず身体拘束を行う場合は、事前に家族に理由等を説明し、同意を得る体制を整えている。身体拘束についてのマニュアルも作成している。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全面に配慮し、玄関はタッチ式の自動扉で内側のスイッチが少し高い位置にあるが、家族に説明を行い、同意を得ている。また、利用者の希望に応じて、居室に施錠を行っている。利用者の外出傾向が察知できるよう、職員は見守りを行い、外出時には付き添っている。無断外出時に備え地域住民から協力が得られる体制が整っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力員による支援体制を整えている。また、各ユニットに非常災害袋を準備し食料や飲料水などを準備している。災害マニュアルを作成し、関係機関への連絡体制を整えているほか、年2回昼夜を想定した避難訓練も行っているが、利用者や地域住民と一緒に訓練を行うまでには至っていない。	○	避難訓練を行う際は、地域の協力員や近隣の住民、利用者も参加して行うことに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成しており、個人別に摂取カロリーや水分補給量を設定し、摂取量を記録している。また、利用者の栄養摂取状況について相談、助言ができる体制を整えている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	市の情報提供やインターネットから感染症に関する最新情報を随時入手し、職員会議や内部研修で学習している。また、得られた情報を基にマニュアルの見直しも行っている。さらに、玄関に注意事項等を提示し、感染症予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高く開放的になっており、ユニット仕切りをはずせば大きいホールになる設計になっている。各ホールでは、音楽を聴いたりテレビを見たりと、利用者が自由な時間を過ごしており、掲示物も季節感を取り入れたものとなっている。職員の立てる物音や光量も適切で、居心地良く過ごせる場所となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には愛用している家具、家族の撮影した写真、お孫さんの絵などを持ち込み、利用者一人ひとりに応じた居室作りを行っている。		

※  は、重点項目。